

日野市立教育センター所報

教育センターだより

第3号 平成16年12月2日発行



日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分
～午後5時15分



新しい時代の市立教育センターへの期待

日野市教育委員会

教育委員長 田口 直

「日野市立教育センター」は、今年4月に発足以来、研究・研修・相談の機能を充実発展することに力を注いできました。まずは関係の皆様にお礼申し上げます。

今、センターは、学校教育への支援はもとより、子どもたちの地域での生活をサポートする社会教育への支援、さらに相談機能の充実など、日野市の教育の原動力を生み出す活動を次々と実行しています。例えば、この10月からは、学校からの訪問依頼に応じて、元教育管理職であった所員が学校を訪問し、授業等への助言を行う制度も始めました。「基本と先進」を掲げる教育施策のひとつとして大きな期待が寄せられています。

このセンターの三つの機能のうち、【調査研究部】では、子どもたちや先生方自身で学校の環境を守る「ひのっ子エコアクション」（命名はセンター主催の環境教育推進委員会によるものです）などの新しい取り組みを進めています。これは、全国的に見ても一歩先を進むものです。平成18年度からは、この研究の成果を生かして、「ISO14001（環境マネジメントシステム規格）」（PDCAサイクル：P－プラン；計画、D－ドゥ；実施、C－チェック；点検・記録、A－アクション；見直し）の考え方を取り入れた学校独自の環境保護の実践も始められる予定です。

【研修部】では、『教科専門研修会』を今夏の3日間で行いました。延べ955名もの参加があり、教員の資質・能力の向上に努めました。『主幹研修会』では組織マネジメントの手法を取り入れるなど、新しい考え方による研修も行われています。

【相談部】は、一般教育相談とわかば教室の二つの係で、児童・生徒や保護者などの相談に応えています。子どもこころの電話相談や、ケースカンファレンスなど、よりきめ細かな相談を通しての手当ても重要度を増してきました。

教育課題が多様で複雑な現在、基礎的・基本的な学習内容の定着、いじめや不登校の解決、親子の地域活動への支援、教師の授業力の向上など、古くて新しい目標が前途に横たわっています。どれもハードルが高いだけに、そのひとつひとつを解決するために、シンクタンクとしての教育センターへの期待は、ますます大きくなることと思います。日野の子どもたちの明るい未来が開けますように、進もうではありませんか。

調査研究事業の活動の状況

少人数指導の効果的な活用についての研究

少人数指導推進委員会

少人数指導推進委員会は、少人数指導の効果的な活用について、日野市の学校に配置されている少人数加配教員、教員補助者等、地域も含む教育力の効果的な活用方法について明らかにすることを目的としています。その取り組みとして、特に、①これまで各学校において明らかになっている成果を分析し、その活用方法について明らかにすること。②少人数指導の効果的な評価方法を明らかにすることなどをねらっています。

◎少人数加配が行われるようになった背景

「確かな学力」を飛躍的に向上させるための総合的施策（文部科学省初等中等教育局 平成16年5月）では、次のような指摘がなされています。

- ・習熟度別指導などきめ細かな指導の実現、学習意欲や学びの質の向上
- ・外部人材の協力による学校現場の活性化、英語力・国語力の向上
- ・国際的にトップクラスの教育の質を担保する条件整備
（教員の質の向上、習熟度別指導等に対応した教員数の増加）

この施策を受けて、日野市でも指導者の加配がなされています。

◎市内各小・中学校の少人数指導の実態調査（教職員の意識調査）を行いました。

- ・配置状況：少人数及びT.T.加配教員配置校〔小学校：18校 中学校：8校〕
- ・これまでの成果：個に応じた指導がやりやすくなり、丁寧に指導できるようになったために基礎学力の向上に役に立った。（一人一人の活動時間、教員の働きかける時間の増加等）。
- ・現在の課題：学校や教科の状況により、多様な指導を工夫する必要がある。授業準備、打ち合わせ等の時間の充実が必要である。評価の方法を工夫する必要がある。時間割の作成が複雑である。習熟度別学習等について保護者・児童・生徒に十分に説明する必要がある。
- ・これまでの工夫：授業案を詳しく、これまで以上に教材の工夫をしている、習熟に時間のかかる児童・生徒の集団はよりきめ細かく指導している。
- ・今後の方策：習熟度などを加味した指導計画（指導細案等の作成・収集、スタッフの活用の仕方の研究）、学習相談室等の開設、保護者・地域への理解を図る。加配教員の活用の仕方の改善、評価のあり方の改善 等

◎三沢台小学校の実践から

《互いに認め合い、進んで自分を表現できる子》をテーマにして、算数科「評価」、算数ノート の書き方、学習振り返りカードの活用、地域の教育力の導入等について研究しています。

◎七生中学校の実践から

少人数指導の試行《英語科の指導を通して》として、少人数指導の中で一部習熟度別学習の試行、少人数指導の学習効果を挙げる工夫、外部の人材の活用による学習相談等の工夫に取り組んでいます。

◎少人数指導推進委員会委員の所属校の実践

習熟度別指導及び評価の仕方についての研究をしています。

◎今後の方向とまとめに向けて

これまですでに明らかになっている成果の分析・まとめと、各調査研究協力校等の実践のまとめを行い、市内各学校の少人数指導の充実のために報告書を作成しています。



地域教育リーダーの養成講座 スタート！

地域教育推進研究委員会

平成14年度から始まった学校週5日制の完全実施や新たな教育課程の導入に伴い、子ども・若者の地域で過ごす時間が増大しました。地域における子ども・若者の自主性・自発性に基づく体験活動は、子どもが社会の有為な形成者になるための「社会性」や「豊かな人間性」を培います。しかし、急激な社会構造の変化は、地域における子ども・若者の自主的な体験活動の機会を奪っています。そのため、地域の中で人々のふれあいの中で、体を動かして学ぶ「生きる力」が育ちにくくなっています。

そこで、本教育センターの事業として、地域教育リーダーを養成する研究に取り組んでいます。

地域教育推進研究委員会

① 目的

学社の連携・融合の方法を研究するとともに、児童・生徒の地域における教育や学習活動を支援するリーダーの養成を行う。

② 内容

- ・各学校区内で子どもにかかわる活動をしている団体とその活動の調査
- ・地域で、子どもたちの指導に努力している方の相互の連携・他地区の活動の情報の収集

③ 組織・運営

委員長：品田敏男校長（日野四小） 副委員長：正留久巳校長（平山中）

委員：学校関係者、社会教育関係者、公民館・博物館の職員、育成会、市内大学関係者、市当局、指導主事、教育センター所員

○第1回地域教育推進研究委員会

8月30日（月）5時30分～

はじめに所長の挨拶と本事業をスタートさせるにあたっての経緯の説明がありました。東京都生涯学習に関する提言、日野市社会教育委員の提言が資料として提示され、続いて委員の紹介が行われて、本題に進みました。そこで、日野市の社会教育、地域の教育の実態について、「市内には様々な活動団体があるが団体相互のネットワークは弱い。」「指導者が固定している。」「子どもの地域における教育リーダーの養成が必要である。」「子どもの地域における教育に様々な世代の人がかかわってほしい。」など、各分野で活躍している方々から意見が出されました。

○第2回地域教育推進研究委員会

10月19日（火）5時30分～

委員長、副委員長を決め、正式に委員会が発足しました。今後の進め方について話し合い、地域教育リーダーを養成する講座を開設することにしました。まず初めに、地域の教育リーダーが何故必要なのか意見交換のためのディスカッションを催し、関心を高めることにしました。

パネルディスカッション

「地域の教育力の充実に向けて」

—— 子どもたちの学びを育てるために ——

12月4日（土）2時～4時 教育センター講堂

地域で、学校で学んだことを生かして体験的な学びを育てるにはどうしたらよいでしょうか。是非参加して意見交換をしましょう。

市教委主催の A 研修

研修担当

教育委員会では、4月から教職員の職務能力の向上を図るために各種研修会を開催しています。1学期(含夏期研修)には、多数の参加があり盛況でした。今学期も引き続き進めていますので、その研修の一部を紹介します。

===== 学校経営研修会 =====

趣旨 当面する教育課題に対する認識を高め、管理職としての職務を遂行する資質、能力の向上を図る。

◇3回目(全5回) 講演会 「教職員のメンタルヘルス」

☆9月10日(金) ・会場：教育センター ・講師：三楽病院精神神経科 真金薫子医長
下記の内容について講演していただきました。

- ・健康の定義
 - ・メンタルヘルス[実態の把握、早期発見、適時介入、職場復帰と再発防止]
 - ・教職員のメンタルヘルスの二面性[組織に勤務する人間として、組織活動の機能として]
 - ・教職員のストレスと心の病気[教職員のストレスの特徴、教職員にみられる心の病気]
 - ・教頭としての対処・援助[配慮が望まれる点、相談・受診へのつなぎ方]
 - ・ストレスへの対処の仕方[ストレスコントロール、ストレスマネジメント、ストレスコーピング]
- (23名参加)

===== 学習指導法研修会 (教職経験2・3年次対象) =====

趣旨 研修生の授業とグループ及び全体の協議を通して、日々の授業の基礎的・基本的な知識や指導技術の向上を図る。

◇5回目(全6回) 国際理解教育の考え方をふまえた授業の実際 授業者 西崎康子教諭

☆9月17日(金) 音楽専科教諭による授業と協議 ・会場：日野二小
ねらい ・バンブーダンスを通して、3拍子のリズムを感じ取る。

- ・フィリピンの音楽や舞踊に親しむ。

展 開 ・常時活動[身体ほぐし、発声練習] ・既習曲の練習 ・バンブーダンスの練習[8人ごとのグループ、グループリレー] ・バンブーダンスの発表[グループ毎]
・まとめ[バンブーダンスを踊った感想等] (35名参加)

===== 主幹研修会 =====

趣旨 当面する教育課題に対しての認識を深め、教務・生活指導・進路指導主幹としての立場で職務を遂行する資質、能力の向上を図る。

◇4回目(全5回) 講演会 「学校における接遇」

☆10月25日(月) ・会場：教育センター ・講師：株式会社パトス 副島寿美香氏
下記の内容について講演していただきました。

- ・印象形成のメカニズム[言葉のチャンネル、声のチャンネル、身体チャンネル]
 - ・コミュニケーションの基本
[対面での対応スキル(見張りの機能、挨拶、会話、最後の挨拶)]
[電話での対応スキル(声だけのコミュニケーション、一方的、記録、有料、感度)]
- (31名参加)

半年間の活動状況

一般教育相談係

～皆様方のご協力もあって、たくさんの子どもと保護者、先生方が利用しております～

教育相談室では、不登校、いじめ、学業不振、対人関係等、様々な問題を子どもとその保護者、学校関係者が取り組むのをカウンセリング等の手段を用いてお手伝いする役割を果たしております。**来室相談**と**電話相談**、子どもが直に電話ができる「**子どもこころの電話相談**」の3部門があります。来室相談では、保護者の面接と子どもの面接を並行で行い、早期の問題改善・解決に力を尽くしております。

今年度は電話相談専任担当1名（非常勤）と、主に来室相談担当4名（非常勤）の体制でスタートして、はや半年あまりが過ぎました。

4月～9月の活動状況を報告します。来室相談の申込み総件数が127ケース、面接述べ回数が810件と膨大な件数に上っています。この件数は過去最高の件数であった昨年度の同時期を上回る件数となっております。不登校やその他の学校不適応への問題解決には、週1回、ケースによっては2週に1回の面接が必要不可欠となります。また、学校との連携も欠かせません。相談員の勤務時間の大半を来室相談にあてたとすると、1か月に約60ケースへの援助を行うことができます。現状では申込み総件数127ケースのうち、終結できたケースもあります。したがって相談室で扱っているのは75ケースほどで、稼働率は120%強となります。このため、相談室では相談の準備・記録や1回の面接時間を削ったり、相談回数を減らしたりする等、苦肉の策をとっております。相談に来られる方にもご迷惑がかかっており心苦しく思います。また、このほか相談室では、電話による教育相談、子どもこころの電話相談、来室ケースに関する学校との連携・相談、学校訪問等（件数は後述）、現状に即した相談活動を行っており、多忙な日々を送っております。

この数字は、学校関係者の皆様方が、当相談室の果たす役割をよくご理解くださり、援助の必要な子どもと保護者に来室を勧めてくださった結果であると思います。ケースによっては、子どもが早い時間に相談室に来られるように学校でご配慮くださり、とても助かっております。とはいえ、稼働率120%の中での相談活動ですので、先生方が「連絡をとりたい」「是非、このケースを教育相談室でみてもらいたい」というニーズに応えきれていないかと思えます。大変ご迷惑をおかけしております。

このほかの相談室の活動をご紹介します。電話相談がトータルで116件、来室しているケースに関する電話（保護者や担任）が106件となっております。学校訪問（ケースに関する打ち合わせや子どもの行動観察等）が16回、スクールカウンセラーとの連絡会議や子育て支援ネットワーク等の外部との連絡会議等が16回、ケースカンファレンス開催が4回となりました。この夏には学校の先生方を対象にした研修会でも2回、講師を務めさせていただきました。また、就学相談の予備面接も22ケース行いました。最近「子どものかかえる問題に対して各関係機関がどのように連携しながら、適切な援助をしていくか」が最も重要な課題となっております。そのため、学校やわかば教室はもちろんのこと、各関係機関とこのように様々な形で連携がとれていることに、とても手応えを感じております。これからもご多用だとは思いますが、日野市の子どもたちのために、先生方と連携を密にしながら共に協力し合っていきたいと相談員一同願っております。どうぞよろしくお願い致します。

《悪者探し》はなぜ、よくないのか？

子どもが何かの問題を起こすと、必ず「誰が悪いのか」という安易な《悪者探し》がはじまる事があります。「母親に問題がある→だから、子どもが不登校になったのだ」「父親がこういう対応をしたからだ」・・・テレビ等をみると、安易な原因→結果論と犯人探しのレッテル貼りが多いように思います。しかし、例えば不登校の子どもの保護者を呼んで「あなたが悪い」と責めたり、口で言わなくても心の中で「この親はまったく・・・」と思ったりしながら対応して、学校に復帰できたということはほとんど無い、ということを学校関係者はみなよく知っているでしょう。何故、「誰それが悪い」という見方では、うまくいかないのでしょうか？

確かに、親が子どもへの対応に一貫性を欠いていたり、子どもが出している問題を認めようとしなかったり、『対応のまずさ』が目にあまったりすることも見られます。もう少し、こうすれば、子どもも変わるのに、何でやらないのか！・・・と第三者から客観的にみますと、歯がゆく思われることすらあります。

《悪者探し》の発想がうまくいかない訳を簡単にまとめますと、次のようになります。不登校の子どもと保護者を例にとりますと、相談に来る保護者ははじめのうち大変緊張し、防衛的です。「自分の子育てが悪いと責められやしないか」と思っています。既に、周囲の人間（親戚など）が「おまえが悪い」と責めたり、自分で自分を責めていたりする場合が非常に多いからです。責められる→心の余裕を無くしていますので、子どもの状態の一部分しか見られず、「学校に行きなさい」と責め立てる→子どもはますます頑なになるという図式が見られます。ここで、いくら「その対応は・・・」と言ったところで、余裕が無いので新しい視点を発見したり、対応したりする余力が無いため、「言われたとおりにやっただけ、だめでした」となります。

相談員の姿勢としては、はじめは特に保護者の大変さやつらさをねぎらったり、いたわったりします。まずいと思える対応も、その人の精一杯の努力である場合も多くあります。内容はともかく、まずい対応の意図は‘子どもの問題改善のため’ですので、その点を「一生懸命やっているねえ・・・」と伝えます。そうして、多少の余裕が生まれたところで、問題の明確化を図り、親や子どもが取り組むのを手伝います。取り組みを続けていくと、問題全体への視野が広くなり、“気づき”が出てきます。「自分の前の対応はまずかったですね」と話すこともあります。そして、「子どももこんな事があってつらかったね」といたわる気持ち、「本人の状態からして、そろそろ動けそうだ。学校復帰のための担任との話し合いをするよう、キッパリと伝えてもいい時期だ」と現実と直面させる決心・・・等が出てきます。

その人がやっているまずい対応は問題かもしれませんが、その人自身の存在は無条件に肯定し、尊重できるという態度が非常に重要です。「この親御さんは、××というまずい対応をしている。だけど、懸命に子どもの問題を何とかしようと悪戦苦闘している。背景には周囲に理解されず、つらい思いが重なってきたことがこのまずい対応につながったのでは・・・？」

「このすばらしい存在である親御さんに、どうやって××というまずい対応が入りこんできたのかな」という態度です。つまり、その人がしている様々な問題とその人自身の存在は別なのです。

この態度を維持できることが子どもや保護者とかかわるときにうまくいくかどうかの大事な鍵であると考えられます。これはこちら側一相談に携わる者が、相手の存在を尊重しつつ、問題は問題として捉え、広い視野にたてる心の余裕を持ち続けられることが、必須であると近頃痛感しています。

不登校に悩む子どもたちと、「わかば教室」に通室する子どもたち

学校生活相談係

1 公的な相談機関として

不登校の状況に気づいたとき、学校では、担任の先生を中心に、本人・保護者との情報交換をとおして本人にとって何が最善かを話し合い、学校における友人関係や学習・生活についての指導・配慮のことや、家庭との連携、保護者の子どもへのかかわり方等についての対応を相談されますが、その時に相談機関の活用についても考えておくことが必要かと思われます。

現在、不登校に悩む子どもたちの来訪では、担当の所員、カウンセラーを中心に相談を始めます。集団生活に加われることを求め、本人に入っていける態勢ができているかどうかを見極めながら次の相談日を検討したり、「わかば教室」の入室体験を勧めたりします。入室手続きをとった後は、「わかば教室」の生活を段階ごとに設定してステップアップを図っていきます。学校生活相談は日野市立教育センターが所管し、学校と同じ日野市教育委員会の管轄ですので、学校の先生方との連絡がとり易く、連携して対応し易いことが他の機関に比べて言えることです。

平成 16 年度 不登校に関する月別相談回数(新規のみ)	
4 月 9 人(小学生 3、中学生 6)	8 月 0 人
5 月 3 人(小学生 0、中学生 3)	9 月 6 人(小学生 2、中学生 4)
6 月 2 人(小学生 0、中学生 2)	10 月 8 人(小学生 3 中学生 5)
7 月 6 人(小学生 3、中学生 3)	10 月までの合計 34 人

表の「不登校に関する月別相談回数」では、4 月並びに 7 月・2 学期以降に多くなっています。不登校の改善に向けては、特に進級・進学時の節目、長期にわたる夏季休業中の生活の重視です。

相談に来られる方は、保護者の意向によることが多いです。小学生の場合はほとんどが親子一緒に相談に来られますが、中学生になると相談に行くことを拒むこともあって、保護者の方のみで見えることがあります。こうした時、あせりや不安を駆り立てがちなのですが、気持ちを落ち着かせて、保護者だけでも相談に来る意義は大きいです。

2、通室する子どもたちと、「わかば教室」の活動

(1) 学習タイム

5 名の指導員が専門を生かし、国 算/数 英 社 理の学習指導支援を行っています。個別時間割りのもとで、教科書や学校から配られたプリント、指導員自作の教材などに沿って進めています。子どもたちが見せてくれる意欲的な表情や態度にその使命をふくらませています。

(2) わかばタイム 月曜日(スポーツ)、火曜日(栽培)、水曜日(音楽)、木曜日(読書・作文)、金曜日(総合)

集団における望ましい人間関係づくりを目指し、異年齢による活動をとおして、1 日の生活に変化をつけています。10 月の中旬、久しぶりに迎えた秋晴れの日、外に出て俳句を書きました。

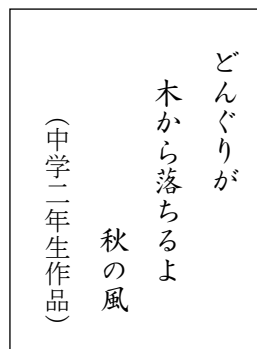
(3) 相談活動

カウンセラーによる相談を計画的に、また、随時行っています。必要に応じて保護者への相談も積極的に行っています。

(4) 2 学期の行事

高幡台老人ホーム訪問、スポーツ大会(バトミントン)、誕生日会、収穫祭と調理実習、地域観察学習、音楽会、ボランティア活動

スポーツ大会を終えた今、バトミントンに燃える子どもたちです。
※体育館、運動場、公民館の実習室などの施設利用、そして、地域の方々の協力をいただき、通室する子どもたちは明るく元気に、その活力を増しています。



(学校生活相談係の連絡先 直通電話 「わかば教室」 592-0863)



教育図書・資料室のご案内

教育センターでは、教職員研究室の蔵書・教育資料を引き継ぎ、わずかながらではありますが、教育の現場に役立つ教育図書・資料、VTR・DVD等を購入・収集して、市内に勤務する教職員や市民の皆様にご提供できるよう努力しております。これらは、常時閲覧でき、教職員には貸し出しをしております。図書・資料については、電話やFAXでも受け付け、学校交換便を利用した貸し出し・返却もできます。11月までに図書は121冊、VTR 20本を貸し出しご活用いただきました。今後とも皆様のご利用をお待ちしております。是非、教育センター・教育図書資料室にお立ち寄りください。

平成16年度前期 購入図書の紹介

教科領域	図 書 名	編・著者名	発行元・出版社
社会科	社会科授業はインターネットで進化する	谷 和樹	明治図書
	社会科の思考を鍛える新テスト ―自作ヒント―	北 俊夫	明治図書
	中学校の授業開き 1年が決まる黄金の3日間のシナリオ	竹中 廣司	明治図書
	中学校の地理テーマ 地域学習の新展開	大谷 猛夫 春名 政弘	地歴社
	中学校社会科授業のり・デザイン 新しい授業づくりと絶対評価	長谷川 浩 工藤 文三	東洋館出版社
数学	個に応じた指導に関する指導資料 ～発展的な学習や補充的な学習の推進～ 中学校数学編	文部科学省	教育出版社
理科	個に応じた指導に関する指導資料 ～発展的な学習や補充的な学習の推進～ 小学校理科編	文部科学省	教育出版社
	中学校理科編	文部科学省	教育出版社
	理科授業づくりシリーズ 1、子どもの感性がつくる理科の授業	森本 伸也	東京館
	理科授業づくりシリーズ2、理科教育の責任	益田 裕允	東京館
	理科授業づくりシリーズ 3、理科授業に役立つポートフォリオ	貫井 正納	東京館
	教師力向上ハンドブック 理科授業3、4年	日置 光久	東洋館出版社
	教師力向上ハンドブック 理科授業5、6年	日置 光久	東洋館出版社
	観点別小学校理科新評価基準表	北尾 倫彦 宮下 秀雄	図書文化
	新理科の発展教材&補充学習活動づくり事典	日置 光久	明治図書
生活科	観点別評価実践事例集・解釈と評価技法アイディア	北尾 倫彦 万代る里子	図書文化
	生活科の授業方法 新しい評価を生かす構想と展開	嶋野 道弘 寺尾 慎一	ぎょうせい
	子どもの学びを発展させる生活科の授業と評価 上・下巻	田中 力 寺崎 千秋	教育出版
	小学校生活科・総合的な学習基礎・評価のポイント	嶋野 道弘	東洋館出版
道徳	伝え合う力を豊かにする自己発見学習	井上 一郎	明治図書

道徳	道徳と総合学習で進める心の教育 小学校低学年	諸富 祥彦 黒岩 絹子	明治図書
	〃 小学校中学年	諸富 祥彦 上田 雄太	明治図書
	〃 小学校高学年	諸富 祥彦 尾高 正浩	明治図書
	早わかり人権小事典	中野 睦夫	明治図書
	中学校版生徒の心に影響する道徳教育の進め方	七條 正典 斎藤 宥雄	東洋館出版 全国道徳授業実践研究会
情報教育	フリーで使えるホームページ素材大全 2	(株) ローカス	株式会社ローカス 「LOCUS」
	フリーで使えるホームページ素材集 2 Photo 編	(株) ローカス	株式会社ローカス 「LOCUS」
	フリーで使えるホームページ素材大全	(株) ローカス	株式会社ローカス 「LOCUS」
適応指導 教育相談	生徒指導資料第2集「不登校の対応と学校の取り組みについて」 小学校・中学校編	国立教育研究所	国立教育研究所
	石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門 —学校心理学・実践編—	石隈 利紀	図書文化
	学校心理学	石隈 利紀	誠信書房
学習指導 学校経営 等	教職研修'04情報版 教職研修総合特集	菱村 幸彦	教育開発研究所
	学習指導・評価 実践チェックリスト	木原 俊行	教育開発研究所
	確かな学力の形成 100の実践ポイント	高階 玲治	教育開発研究所
	子どもを伸ばす少人数指導の工夫と実践	加藤 幸次	教育開発研究所
	学校の組織設計と協働態勢づくり	木岡 一明	教育開発研究所
	こらからの学級と組織マネジメント	木岡 一明	教育開発研究所
	特色ある学校づくりのための新しいカリキュラム 開発 特色ある学校づくりとカリキュラム開発	保彦 忠彦	ぎょうせい
	〃 教科の充実で学力を伸ばす	中野 和光	ぎょうせい
	〃 総合的な学習を充実させる	長尾 彰夫	ぎょうせい
	小・中学校指導要領一部改正・解説書	文部科学省	文部科学省
	住民参加型福祉と生涯学習	辻 浩	ミネルヴァ
全東京便利情報地図 23区+多摩		旺文社	

購入DVDの紹介：[プロジェクトX 全10巻 II期] 是非ご活用ください。

—研究発表会のご案内—

☆ひのっ子教育21研究員会研究発表会 日時 平成17年2月23日(水) 場所 ・研究授業：日野第七小学校 13:30～14:25 ・研究発表：日野市民会館大ホール 14:30～16:30		☆調査研究事業研究成果発表会 日時 平成17年2月28日(月) 15:00～17:00 場所 教育センター講堂	
---	--	---	--

是非ご出席ください。